

2026年度 長野県須坂市

「地域おこし協力隊」事業計画書

(空き家・空き店舗対策、移住支援)

須坂市は、地域の空き家、空き店舗（以下、「空き家等」という。）を有効活用し、都市部からの移住や市民の定住につなげるため、空き家等対策及び移住支援業務を担う地域おこし協力隊の募集を行います。

事業計画は、地域おこし協力隊の任用期間中、及び卒業後の活動をイメージして主な活動内容を記載しています。

計画書に記載されている活動が全てではなく、空き家等を活用するためのアイデアや関係人口の定住を図るためのアイデアを幅広く求めていますので、空き家等のリノベーションや改修した空き家等を活用した起業に興味のある方、地域住民や他の団体と協力し、地域の課題解決に向けた活動に興味がある方等々、空き家等を活用した地域づくりに関心がある方の応募をお待ちしております。

<目次>

1. 須坂市の課題
2. 事業目的
 - (1) 空き家等の活用に向けて
 - (2) 移住政策の促進に向けて
3. 取り組んでもらいたいこと
 - (1) 空き家等の活用に係る活動
 - (2) 移住支援に係る活動
 - (3) 協力隊員のスキルアップに係る活動
 - (4) 地域おこし協力隊の活動スケジュール（参考）
4. 目標とする成果
5. 支援体制
6. その他



【注】この計画書は、地域おこし協力隊の募集にあたり、記載した全ての事業を必ず行ってくださいということではありません。

現在活動している内容を中心に挙げているほか、着任した方のこれまでの経験や希望に応じて、担っていただきたいと考えている事業を挙げたものです。

1. 須坂市の課題

須坂市は、千曲川を挟んで県庁所在地の長野市に隣接し、東京都心からは新幹線と私鉄長野電鉄を利用して約2時間、自動車でも練馬インターチェンジから須坂長野東インターチェンジまで約2時間30分など、交通アクセスに恵まれています。また、山に囲まれた地域であることや、日本海へ約1時間で行ける立地であるため、1年を通じて自然環境を利用したアクティビティが楽しめる土地柄であることから、首都圏からの移住地に適している「適度な田舎」と言えます。

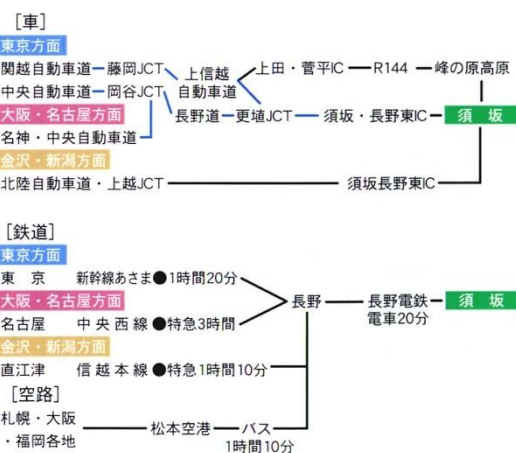
このような豊かな自然と利便性を兼ね備える一方で、全国的な傾向と同様に、須坂市でも深刻な人口減少と少子高齢化が進行しており、特に若年層の地域からの流出が課題となっています。これにより、地域経済の担い手不足、コミュニティの活力低下といった問題が顕在化し、持続可能な地域社会の維持が喫緊の課題です。

さらに、この人口減少に伴い、市内で顕著な問題となっているのが「空き家」の増加です。核家族化や相続放棄等の複合的な要因により、空き家が年々増加しており、景観の悪化、防犯・防災上のリスク、さらには地域資源の未活用という側面も生じています。

一方、須坂市の活力を再生し、地域社会を維持していくためには、都市部からの「移住者の誘致と定着」が不可欠です。しかし、移住希望者にとって、安心して暮らせる住居の確保は依然として大きなハードルとなっています。また、地域とのつながりや仕事に関する情報不足も、移住への一歩をためらわせる要因です。

そのため、空き家問題を単なる負の要素として捉えるのではなく、増加する空き家を「移住者向けの住まい」として有効活用することが重要です。空き家をリノベーションし、移住希望者に提供することで、住居確保の課題を解消し、スムーズな地域への定着を促進します。さらに、移住者が地域の一員として活躍できるよう、地域住民との交流機会の創出や、生活・仕事情報の提供を強化することが求められます。

空き家対策と移住支援の連携強化は、須坂市の人口減少対策と地域活性化における喫緊かつ重要な課題であり、その解決が市の持続的発展に大きく寄与すると考えられます。



2. 事業目的

(1) 空き家、空き店舗の活用に向けて

地方都市共通の課題である空き家問題については、地域における人口及び世帯数の減少や世帯構成の変化、既存の住宅・建築物の老朽化などに伴い、使用されていない住宅等が年々増加してきています。

一方で生活スタイルの多様化に伴い、地方都市でのコワーキングスペースの整備が進み多拠点で働くことが可能となり、二地域居住や大都市からの移住を希望する人が増えています。また、須坂長野東インターチェンジ周辺開発による地域経済圏の変化から住宅、店舗の需要が増えていくことが予想されています。

このような実状があることから、市内に存する空き家、空き店舗を活用して、新たな事業の創出や移住者への住宅提供を目指していますが、行政が主導する活動には各種の制約が多いことから、民間団体等が主体的に活動し、行政は政策面でサポートしていく連携体制を構築していきたいと考えています。

(2) 移住政策の促進に向けて

須坂市は長野県の北東部に位置し、北信五岳を望む自然環境やブドウやリンゴをはじめとする豊かな「食」の魅力にあわせて、首都圏へのアクセスも良好であることから、移住先としての潜在的な魅力は高いと認識しています。

しかしながら、効果的な情報発信や移住希望者へのきめ細やかなサポート体制など、潜在的な移住希望者を呼び込み、定着させる仕組みが不足しています。

情報発信や移住体験ツアーを行うことにより関係人口を増やし、須坂市の魅力を知ってもらい、移住者を呼び込むことで地域の活性化へ繋がりたいと考えています。

これらの課題に対し、地域で空き家、空き店舗対策及び移住支援を主体的に行うプレイヤーを担っていただく人材が必要であり、協力隊員には機動力と地域外の視点をもって、移住希望者への情報発信や空き家、空き店舗活用の提案等を通して、地域の活性化を図る事業の立ち上げを行ってくださる方を募集します。

3. 取り組んでもらいたいこと

(1) 空き家、空き店舗の活用に係る活動

① 目標

増加する空き家、空き店舗の有効活用を図り、地域の活性化と新たな移住者の受け入れ促進を目指します。

空き家、空き店舗の活用事例をPRし、所有者等の意識改革を図ります。

空き家、空き店舗の活用モデルを創出し、地域の課題解決を図ります。

空き家対策事業に取り組む民間団体等と連携し空き家の活用等に係る事業に携わってもらうことで、空き家対策に関する知識や経験を積むとともに、空き家の解消に向け地域で活躍してもらいます。

② 活動内容

ア 空き家、空き店舗活用促進

空き家、空き店舗の改修やリノベーションに関する相談対応、設計士や工務店等の専門家との連携支援。地域特性やニーズに応じた活用モデル（カフェ、シェアハウス、ゲストハウスなど）の提案と実現に向けたサポート。DIYワークショップや改修イベントの企画・運営

イ 空き家バンクの運営強化

空き家、空き店舗情報の掘り起こし、所有者への活用（登録）促進、現地調査、空き家バンク専用サイトでの魅力的な情報発信

ウ マッチング支援

空き家、空き店舗の案内、利用希望者からの相談対応、所有者等との交渉支援、契約締結までのサポート

エ 相談会、セミナーの企画

空き家、空き店舗所有者向け相談会、セミナーの企画

(2) 関係人口の増加、移住支援に係る活動

① 目標

移住希望者と地域のミスマッチを防ぎ、「選ばれる地域」としての情報発信と受入体制の構築を行い、移住者の増加、定住率の向上を図ります。

移住希望者の相談から移住、定住までを一貫してサポートし、須坂市への移住を促進します。

② 活動内容

ア 情報提供

須坂市の認知度向上、親近感の醸成のため、SNS等でのリアルな暮らし発信、移住者インタビュー記事の作成

イ 移住体験ツアーの企画・実施

移住体験ハウスの利用促進に向けた施設の紹介、須坂市の暮らしを体験できるツアーやイベントの企画・運営補助

ウ 定住サポート

移住後の孤立防止のため、移住者交流会の企画・運営、地域住民や先輩移住者との交流機会の創出、移住後の生活相談や地域行事への参加の橋渡し

(3) 協力隊員のスキルアップに係る活動

① 目標

地域おこし協力隊員が任期終了後も須坂市に定住し、地域の一員として自立・活躍できるよう、自身のキャリアに必要なスキルを身につけます。

地域を支える新たな担い手として、長期的に活躍できる環境を整備していきます。

② 活動内容

ア 各種セミナーへの参加を支援します。

地域課題解決に必要なスキル（情報発信、イベント企画など）を習得できるよう、県や民間団体が主催するスキルアップセミナー等への参加を支援します。

イ 市内で空き家対策に取り組むプレイヤーとの関係構築を支援します。

活動内容に応じて、不動産、建築などの専門家との連携機会を設け、専門知識やノウハウを吸収できる環境構築を支援します。

ウ 地域活動への参画促進

任期終了後の就職や起業、地域での活動基盤の構築に向けて、地域における人的ネットワークを構築できるようサポートします。

エ 空き家団体「一般社団法人すざかランドバンク」に所属して、実際に空き家の問題を解消します。

実践的な事業活動に携わることで、卒隊後に事業を行う上での収入源を意識した活動を経験できます。

上記の活動内容は、須坂市がサポートを必要としている事業です。

協力隊任期終了後の事業展開を見据えた、自主事業の創出に向けた活動や、ご自身の空き家等の活用を妨げるものではありません。

地域の活性化に繋がる新しいアイデアを大募集します。

(4) 地域おこし協力隊の活動スケジュール（参考）

< 1年目【基礎固め・地域理解】 >

- ・ 地域住民や関係団体との関係構築、地域特性や課題の把握
- ・ 空き家バンクのシステム理解と登録促進の基礎固め
- ・ 移住相談対応の基礎習得と情報収集
- ・ 地域イベントへの参加を通じた地域理解と情報収集

< 2年目【実践・応用】 >

- ・ 空き家、空き店舗活用モデルの具体的な提案と実行支援
- ・ 移住体験プログラムの企画・実施、効果的な情報発信の強化
- ・ 地域課題解決に向けた具体的なプロジェクトの立案・実行

- ・地域での新たなネットワーク構築と事業展開の模索。

< 3年目【自立準備】 >

- ・これまでの活動成果の集約と検証、地域への定着に向けた具体的な準備
- ・自身の任期終了後のキャリア形成に向けた活動（起業準備など）

4. 目標とする成果

次の効果を成果として期待します。

- ・須坂市の情報発信力向上
- ・移住相談件数の増加と須坂市への移住者数の増加
- ・空き家バンクへの登録物件数の増加とマッチング件数の向上

地域おこし協力隊の活動終了後は、須坂市に居住し、空き家、空き店舗対策の専門家として、また、先輩移住者として活動できるプレイヤーとなってもらうことを期待します。地域で活動していくためのスキルを身につけることで、自ら起業し、継続して経営することも目指す成果の一つと考えています。

5. 支援体制

経験豊富な心強い協力隊の先輩がいます。

着任後は空き家対策を中心にまちづくり活動に取り組む地域の民間団体「一般社団法人すざかランドバンク」に所属していただきます。代表理事の北さんは、協力隊の先輩でもあり、空き家問題や移住支援に取り組む地域のプレイヤーと共に団体を設立しました。

これまでに市内でまちづくり活動に取り組んできた専門家（司法書士、建築士、宅建士等）が協力していますので、業務の事はもちろんですが、生活していく中での困り事や任期終了後のキャリアについての相談をすぐ身近に聞くことができます！

須坂市も空き家・空き店舗対策、移住支援事業は重点課題となっていますので、協力隊の活動予算を協議し、柔軟かつ有効に経費を活用し、目標達成に向けて支援していきます。

また、活動を行っていく中で「起業したい」「なにか自分で新しい産業を生み出したい」などの思いが出てきた場合には、起業する活動を分離独立させたり、別途事業を立ち上げ代表になられることを積極的に応援します。

6. その他

「取り組んでもらいたいこと」は募集時点での計画です。実際に行う事業内容は、採用決定後、希望と実施の可能性を踏まえ、改めてまちづくり課及び一般社団法人すざかランドバンクと相談します。

★事業計画の内容に関する問合せ先

須坂市まちづくり課（担当：浅野）

（Tel：026-248-9007、E-mail：s-machidukuri@city.suzaka.nagano.jp）